

重点取組項目	現状と課題 〔R 6.7.4 第4回信州学び円卓会議資料抜粋〕	取組の方向性（具体的な方策） 〔R 6.10.16 第5回信州学び円卓会議資料抜粋〕	令和7年度関連事業（取組）
1 子どもたちが 学校等でやり たいことを 支える	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもたちが主体的・対話的に学ぶことができる環境が整備されていない ■子どもたちが先生と向き合う時間が不足している ■「好き」「楽しい」「なぜ」とことん追求することについて、保護者・地域などからの理解・協力がなかなか得られない 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味・関心や学習進度に応じた学習者中心の学びの推進 ・安心安全で自分の「やってみたい」を受け止めてもらえる環境づくり ・個別最適な学び、協働的な学びなど、学習指導要領で求められる学力を身に付けるための授業改善 ・プロジェクト型学習、STEAM教育等、様々な手法を取り入れた新たな教育モデルの構築と知見の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユースセンターの設置促進 ・ウェルビーイング実践校 TOCO-TONの実施 ・県立高校の特色化の推進 ・県立高校の情報発信強化・充実 ・長野スクールデザイン（NSD）の実施
2 教員が学校等 でチャレンジ したいことを 支える	<ul style="list-style-type: none"> ■事務量の多さと多忙感により時間的・精神的な余裕がなく、余白がない ■戦略的な管理職の育成が行われていない ■学校組織のマネジメント力が発揮されていない ■外部人材の活用が進んでいない ■保護者との良好な関係づくりが進められていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員配置の充実や外部人材の活用、市町村教委への指導主事配置の推進等による教職員の余白づくり ・教員の柔軟な採用・配置・異動を含めた処遇の抜本的な改善、教育制度の構造に踏み込んだ改革 ・教員業務支援員の拡充・民間人材（地域、企業等）の積極的な活用、特別免許状の積極的な活用 ・教育委員会による業務の共有・調査等の削減・人的リソースの確保、大学等と連携した管理職養成 ・部活動の地域移行を専門的に担うコーディネーターの配置、外部指導者の予算措置 	<ul style="list-style-type: none"> ・私立学校教育の質の維持向上 ・学校改革支援センターの設置 ・欠員対策、産育休代替のための教員配置 ・教員業務支援員配置 ・授業の質向上と働き方改革のための教員配置 ・地域人材の活用による英語力の向上
3 一人ひとりの 学びや得意を 共に認め合う 仕組みを検討 する	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもが抱える困難の多様化・複雑化に対する理解が進んでない ■学校だけに責任を追及しない社会の寛容さが醸成されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の強みや得意な分野を活かしてチャレンジできる入試制度の検討 ・多様な学びを互いに認め合う、出席認定にとられない評価のあり方の検討、自由な進路選択の保障 ・「学校外にも豊かな学びの場がある」「学校に行けなくても大丈夫」という価値観の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・信州型フリースクールの運営支援 ・オープンドアスクールの設置支援 ・特別支援教育推進 ・中学校校内教育支援センター支援員配置補助

「信州学び円卓会議」重点取組項目の状況について

重点取組項目	現状と課題 〔R 6.7.4 第4回信州学び円卓会議資料抜粋〕	取組の方向性（具体的な方策） 〔R 6.10.16 第5回信州学び円卓会議資料抜粋〕	令和7年度関連事業（取組）
4 長野県の中山間地域の強みを活かした特色ある学びを広げる	<ul style="list-style-type: none"> ■人口減少社会における学びの場の確保や質の維持・向上のあり方の検討が急務となっている ■小規模校の学びを支える人材の発掘・育成の仕組みが整備されていない ■学校間、自治体間等の連携・協働が進んでいない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した遠隔学習、自由進度・異年齢による学びの推進、特例校制度の積極的な活用 ・管理職の公募、在任期間の長期化、ガバナンス・マネジメント力の強化、裁量権の拡大 ・へき地手当を含めた抜本的な処遇改善 ・小規模校のネットワーク化による単位の相互互換、特色ある授業の受講、短期留学の実施等 	<ul style="list-style-type: none"> ・信州自然留学（山村留学）受入支援・魅力発信 ・信州やまほいく（信州型自然保育）の普及 ・学びと育ちの森づくり推進 ・へき地手当・準ずる手当の充実 ・中山間地をつなぐオンライン授業支援
5 「こどもまんなか社会」の実現に向けた様々な機関の連携・協働を進める	<ul style="list-style-type: none"> ■学校と学校外の関係者の対話の場・機会が不足している ■多様な学びに関する情報にアクセスできる環境が整備されていない ■関係諸機関の連携を促進するコーディネーター人材が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・学校外、公立・私立の対話・連携、相互交流、学び合いの推進、情報・ノウハウの共有 ・不登校や学校以外の学びに対する理解の形成・拡大 ・相互のコミュニケーション・関係づくりを重視した幼保小連携の推進 ・学習支援や課外活動の運営等を行うコーディネーター的役割の支援組織・体制の構築 ・子どもや保護者といった当事者の声をしっかりと聴き、受け止める 	<ul style="list-style-type: none"> ・「信州学び円卓会議」ともつくミーティングの開催 ・生活困窮家庭の子どもに対する学習・生活支援 ・農業の未来の担い手支援 ・子どもの学びをトコトン支える県民の会 ・学校と社会をつなぐ連携コーディネーター配置 ・コミュニティスクールの促進
6 多様な学びの場を信州全体で支えるネットワークを再構築する	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもが抱える困難の多様化・複雑化に対する理解が進んでない ■学校だけに責任を追及しない社会の寛容さが醸成されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育行政の広域化（一部事務組合、教育委員会・指導主事の共同設置等） ・人事、予算等の権限や財源の移譲 ・学校改革の伴走支援の専門組織の新設、学校支援の専門家の育成 ・地域・社会資源（自然・歴史・文化・人材）の充実、積極的な活用 ・企業・研究機関との連携・協働 	<ul style="list-style-type: none"> ・「信州学び円卓会議」フォーラムの開催 ・信州環境カレッジ事業 ・「信州ベンチャーコンテスト」の開催 ・将来世代と地域企業をつなぐプロジェクト ・教育事務の広域連携・共同化に係る研究 ・木曽地域広域連携推進会議学びの場環境整備部会